

みさと団地プロジェクト 完了レポート



◆プロジェクト概要

分類	大規模団地のネイバーフッドデザイン
顧客パートナー	独立行政法人都市再生機構/株式会社 UR リンケージ
事業概要	目的： UR 都市機構が推進する団地の医療福祉拠点化に基づくミクストコミュニティの創造による団地の活性化。 規模：分譲、賃貸住宅含む約 8,000 世帯 形態：2つのコミュニティ拠点の企画・運営。 スタッフ育成。担い手育成。 地域名：埼玉県三郷市彦成
事業期間	2016 年 7 月～2017 年 11 月

◆取り組み

コンセプト	・手づくりアクセサリーや小物の販売を通して、団地内外の子育て世代を呼び込む。 ・商品販売を通して、今まで地域に参加しなかった団地居住者を拠点に引き込む。 ・団地内外の住民の作品を商品化することにより、参加型で持続
-------	--

	可能な地域づくりに繋げる。 ・団地内外の子育て世代を巻き込みながら、自治会や商店会、お年寄り向けのコミュニティカフェと連携してミクストコミュニティを形成する。 ・団地内の他店舗との単純な競合を避けるために、仕入れ関係や商品企画を行う。 ・団地内の商店同士の交流を促進。 ・団地内外の多世代のスタッフをアルバイト雇用し、コミュニティ形成の教育を行いながら担い手に育成。 ・店舗の引き継ぎ先を発掘、継承。 ・来場者数、販売売上、点数を細かにカウントし、コミュニティカフェの持続的な運営のための PDCA サイクルを推進。
背景・ねらい	・高齢化が進む団地内で、世代を超えた交流が生まれ、互いに助け合えるような事業・企画が継続的に行われる環境を生み出す（担い手の育成・発掘）。 ・団地内に住む子育て世代の顔が見える環境をつくる。
取り組み	「2区画のコミュニティカフェの企画運営」 ・ドリンク、軽食の販売 ・契約者の手づくりや仕入れた作品を販売するレンタルボックス ・スペースの時間貸し ・キッチンスペースを貸し出す一日店長機能 ・イベント/講座の企画、開催 ・地域のイベントへの参加
担当者の思い	・HITOTOWA が主体ではなく、地元住民が自ら運営する体制づくりを徹底的に意識した。具体的には、イベント企画や拠点の運営に挑戦してもらい、最終的な責任は全面的に HITOTOWA が担う体制を取った。 ・出逢う人すべての方々との協働の可能性を探りながら活動を続けた。 上記のことを意識しながら、持続可能な担い手探しを行った。
成果	・運営中のスタッフ育成により、卒業してからも自らコミュニティに携わるスタッフを生み出した。 ・地域の NPO 団体に引き継ぎが完了し、担い手が発掘できた。

	・年間来場者数（2016 年 8 月～2017 年 9 月）が年間来場者数 1 万人を超えた。 ・1 日の平均来場者数は約 30 名。年齢・性別で分けると 20 代～40 代の女性（子育て世代）が約 40%を占めた。 ・レンタルボックス契約者は 20 名。
HITOTOWA メソッド	・GOAL：期間内で築くことができる町の将来像を明確化。 ・SPACE：2 つの拠点それぞれに設定したターゲットに適したデザイン・企画内容を遂行。 ・OPPORTUNITY：約 190 回のイベントを企画、運営。イベントの内容は、一つ一つターゲットを変えて様々な趣味、趣向の人が興味を持てる内容を用意した。
関連リンク	http://mi-akinai.com/ https://www.facebook.com/miakinai/